学校番号	202

令和３年度　情報科

教科	情報	科目	社会と情報	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新・見てわかる社会と情報（日本文教出版）						
副教材等	ポイントでマスター　基礎からはじめる　情報リテラシー（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

　スマートフォンで世界中の情報を簡単に手に入れられる時代のなかで、コンテンツを生み出す情報端末であるパソコンの基本的な操作を身に着けることを目標として、実習を行います。
　また、あふれる情報のなかから、自分にとって必要な情報、正しい情報を見極め、効率よく収集する方法を学び、情報社会のなかで生きていく力を身に着けます。

２　学習の到達目標

・情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する。
・情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集，処理，表現できる。
・効果的にコミュニケーションを行う能力を身に着け，情報社会に積極的に参画する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	情報や情報社会に関心をもち、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしている。	情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、適切に判断し表現している。	目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
評価方法	出席状況 授業態度 プリント 自己評価 等	授業態度 定期考査の結果 プリント 作品 相互評価 等	作品 実技小テスト 等	定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	情報モラル	スマートフォンの利用 ＳＮＳの正しい使い方 肖像権	○	○		○	a:関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 b:インターネット上で、してよいことと、してはいけないことの判断ができる。 d:判断のための知識や根拠を理解する。	出席状況 授業態度 プリント 自己評価 定期考査
1	情報のディジタル化	ディジタルとアナログ 文字のディジタル表現 画像のディジタル表現	○	○		○	a: 関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 b:数値を２進数で表現できる。 d:標本化と量子化を理解できている。	出席状況 授業態度 定期考査
1	文書処理	キーボードからの文字入力と変換 文書処理ソフトウェアを活用し、様々な文書を作成する。	○		○	○	a: 関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 c:目的に合わせ、ソフトウェアを有効に活用できる。 d:効率的な文字入力方法や、ソフトウェアの操作方法を理解する。	出席状況 授業態度 プリント 定期考査 作品 小テスト
2	データの分析	表計算ソフトを用いてデータの加工・分析を行う 加工・分析したデータをわかりやすく表現する。	○	○	○	○	a: 関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 c:目的に合わせ、ソフトウェアを有効に活用できる。 b:データの正しい処理方法を判断できる。 d:効率的なソフトウェアの操作方法を理解する。	出席状況 授業態度 プリント 定期考査 作品 小テスト
2・3	社会における情報	著作権 情報セキュリティ 情報のディジタル化	○	○		○	a: 関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 b:コンピュータとネットワークの特性を理解している。 d:コンピュータでの情報の表現方法を理解している。著作権について理解している。	出席状況 授業態度 プリント 定期考査

3	情報の発信	プレゼンテーションソフトウェアを活用し、収集した情報に自分の意見を加え発表する。	○	○	○		a: 関心を持ち、自ら進んで授業に参加している。 b:発信したい内容を、効果的に伝える方法を考えることができる。 c: 目的に合わせ、ソフトウェアを有効に活用できる。	出席状況 授業態度 相互評価 プリント 作品 小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。